

学校関係者評価委員会 報告書
(平成 29 年度分)

平成 30 年 10 月 3 日
学校法人国際総合学園
国際こども・福祉カレッジ

1. 開催期日

平成 30 年 10 月 3 日 (水) 18:30~19:40

2. 開催場所

ホテル イタリア軒

3. 出席者 (7 名)

(外部委員) 山崎一夫、稲田泰紀、宮崎則男、地引文貴

(本校職員) 学校長、教務部長 2 名

4. 委員会次第

- ・開会の挨拶
- ・学校関係者評価委員の紹介
- ・平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度事業実施状況報告
- ・学校自己評価の説明 (平成 29 年度の取り組みについて)
- ・学校自己評価に関する意見交換及び質疑応答
- ・閉会

5. 学校自己評価に対する意見、質疑応答

① 教育理念・目標

- ・保護者対象の講演会等の企画があっても良いと思う。保護者会以外のコミュニケーション手段となるほか、実際の授業の様子などを体感できることも保護者からは喜ばれるのではないか。

→認知症サポーター養成講座等、保護者世代の方々が率直に興味を持てる内容もある。実施に向けた検討をしていきたい。

② 学校運営

- ・教職員の職場定着の状況は？

→近年の傾向として、定年や異動以外での退職が減っている。

- ・教職員が長く勤められることは、経験やスキルの蓄積等からも在校生・卒業生にとって有益と考えられる。今後も労務管理等を怠らず、職場環境を維持していただきたい。

- ・現在も YouTube を利用した教育活動の紹介などホームページで行っているが、今後も SNS を通じた PR 活動を進めると良い。

③ 教育活動

- ・厚生労働省による介護福祉士養成施設のカリキュラム見直しが始まっている。認知症ケアやチームマネジメントなどの充実が図られる見通しだ。今後も地域から必要とされる専門学校として、新カリキュラムの構築を図ってほしい。

④ 学修成果

- ・良好である。

⑤ 学生支援

- ・日本産業カウンセラー協会による学校訪問対面カウンセリング制度や新潟リハビリテーション病院での院内対面カウンセリング制度の利用はあるのか？
また、その効果はどのようなものか？
→平成 29 年度の利用は 4 名であった。家族や教職員以外の人間に聴いてもらえることによる安心感の獲得が大きく、担任や学科長等の教員によるサポートと併用していくことで学生の選択肢が増えると捉えており、今後も継続していきたいと考える。
- ・介護福祉士を目指す外国人留学生の受け入れ、育成は今後も増えていくと考えられる。日本語教育については日本語教育専門の教員や学校と連携していくこともやり方の一つではないか。
→外国人留学生の出身校である日本語学校との連携強化を検討していく。

⑥ 教育環境 →概ね良好である。

⑦ 学生の受入れ募集 →良好である。

⑧ 財務 →良好である。

⑨ 法令等の順守 →良好である。

⑩ 社会貢献・地域貢献

- ・災害時の臨時津波避難所として協定を結んでいる古町通 2 番町町内会との合同避難訓練が、平成 29 年度は校舎改築工事などの影響もあり実施できなかった。次年度は合同避難訓練の実施を再開していただきたい。
→次年度は前期のうちに実施できるよう準備していきたい。